電氣部施設
モートル　變壓器修理
平町月見町
佐藤鐵工所電氣部
電話三六二番

舊歳暮メリヤス特價大賣出し
◇大人メリヤスシャツ　金一圓以上
◇大人肉ジバン　金一圓以上
◇中子メリヤスシャツ　金六十錢以上
◇ボーイシャツ　金五十錢以上
◇福助製帽天男女足袋　金五十八錢
◇大中人コール天足袋　金四十錢　金三十錢
◇極厚地メリヤスシャツ　金一圓五錢以上
其他色々の防寒具品狂ひに狂へる特價にて販賣……
賣出期間　舊十二月廿四日（新一月十八日）ヨリ　舊十二月三十日（新一月廿四日）マデ　六日間
山家メリヤス店
平町一丁目

大特價
吉例　大賣出し
御買上高多少に拘らず景品呈上
……舊正月二日……
各種時計　指環　眼鏡類
金光堂時計店
平町五丁目

新築　移轉披露
商品目録
自家釀造醬油味噌
本場出清酒類
舊正月二日　品質吟味　割引大賣出し
南町成田西山隣
小松茂支店

……移轉急告……
美味で評判の
遠藤パン
（有磐座西隣）

特別大興業
賜御臺覽
竹田宮大妃殿下
籠の鳥姉妹篇
巢立ちし小鳥
瀬川銀潮歌川八重子主演
木村猛新入社第一回作品
幕末秘史　猫頭怪人
尾上紋十郎市川百之助　助演
柳生、二刀兩流の使分け
三十六番斬
連續　荒木又右衛門
嵐璃德、實川延松、主演
舊元旦より七日まで　晝夜開館
近日公開
五月信子、第一回作品
連續　情火渦卷く
清水次郎長　後篇
帝キネ直營
有聲座
電話四四六番

福引大賣出し
吉例正月二日。三日。
御買上高參圓毎福引壹本呈上
福引をあげない方には景品
醬油は鹽屋
電話二七番

吉例福引　大賣出し
福引
一等　錦唐縮緬女帶皮　十本
二等　外套又ハ銘仙　三十本
三等　スカーフ又ハ女帶皮　六十本
四等　紺染絣　百本
五等　瓦斯袖地又ハ蹴出し　二百四十本
六等　名入風呂敷　三百八十本
七等　名入手拭又ハ足袋　六百八十本
『カラクジナシ』
目録
正月二日　午前三時開店　鹽屋吳服店
海岸線平町十橋

人院隨意
内科　小兒科　皮膚科　花柳病科
醫學士　青沼淡夫
平町城山（舊城跡）三の丸
青沼醫院
電話四〇三番

是非……
粹で上品な履物を
御求めの際は
平町二丁目　電話一五六番
三井履物店

◇キット買ッテ戴ケル
確信アル値段
米松（セメント　土地　建物　其他各種）
建物請負一般木材業
磐城建物株式會社
平町五丁目　電話五一八番

常磐毎日新聞

一月廿三日　夕刊

定價　一部金貳錢　一ヶ月廿錢　郵税五厘
廣告料　五錢十二字詰一行　休刊日　大祭日　祝日ノ翌日
發行兼編輯人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町卅五番地
發行所　常磐毎日新聞社
福島縣石城郡平町鎭治町十一
印刷所　本社專屬　磐陽社

嚴谷先生を迎へて
本社主催お伽講演會

▽……期日――廿七日午后一時
▽……場所――磐城中學校講堂

――プログラム――

一、開會の挨拶
一、音樂合唱　磐城高等女學校生徒
一、童謠獨唱　田中磐女教諭
一、お伽講話　厄鬼退治　川崎小鳥
一、お伽講演　小猿橋　嚴谷小波先生
一、閉會の挨拶

父兄の方の御來聽を歡迎します、但し御履物を包む爲め風呂敷か新聞紙を御持參願ひます。

常磐毎日新聞社

義務教育費が……
國庫負擔になれば
石城郡は更らに
九萬圓の負擔が輕減する

一部に少し納まらぬ向はあるものゝ大体明大正十五年から實施さるゝことに山が見へたいま中央の重要問題『義務教育費國庫補助二千萬圓問題』の事實化された曉に於て、例へ

極めて　一小局部ではあるが均しくその恩惠を被る石城郡の小天地に對して果して如何なる程度の波動影響があるであらう乎？由來大正十二年度から實施された三千萬圓の

補助は　は先づ四期に分割して市町村に更に二期に渉つて市を除外した町村に爾餘は財政困難なる所謂特別町村に、と云つた具合に前後三回に渉り交附さるゝのであるが、之れを

十三年　度に於る石城郡の實績に徴するに第一次八萬二百四十八圓一錢、第二次四萬六千四百卅二圓八十五錢で第三次の貧弱町村は未交附であるが十二年度分の五千五百圓を標準に計算すると

國庫の　補助額は實に合計十三萬二千圓以上の巨額に達し右は夫々町村の内情により斟酌配分さるゝのであるが、然も十三年度は霜害等によつて特別町村一二の增加を來すべき

事情も　あるから前記十三萬餘圓を下るような事は萬あるまじく之れを基本に今回の國庫補助增額による各町村交附額を推算すれば從來の三が五に

增加す　る計算で即ち少くも八萬八千圓を增した廿二萬圓内外に達する筈で其差額は疑ひもなく各町村住民の租稅その他公課が輕減されるものと見て大差がない筈である。

知らぬ間に身に累む
五百數十圓の借金
倫落の妹を救はんとして
出刄を振り廻す

石城郡小平村大字北方農佐藤慶永（三五）は廿二日午後八時頃泥醉し平町南町飲食店富久美屋事坂野與太郎方に侵入出刄鉋丁を振り廻し

大騒ぎを　爲して居たが急報に接し平署に引致取調べの結果同人の妹いつ（二二）は昨年八月小名濱町某旅館に女中奉公を爲して居た、惡周旋屋の爲め最初廿圓の前借にて前記の飲食店に住み込んだ處何時の間にか五百五十圓の借財にのぼりしより實家にては、驚き

着物のこい垢は　家庭欄

無地や刺しゆうのエリについた汚れを取るに、よくキハツ油でこすつて取りのぞきますが、表面はキレイになつても生地へしみ込みますから、効果は少いのです。むしろキハツを小さい器にでも入れて、汚れた部分をつけ、指先でしごくとキレイにとれます。また色物や刺しゆうでこみ入つたものは白木綿の上にのせ、其上に汚れたものをしき、また白木綿をのせて上から、髪の毛を竹の皮で、固く包んで筆の先のやうにした、プラシでたゝくと、キレイにとれます。

白粉よごれのひどいものは茶ワンにフノリを入れ沸いた湯をそゝいでどろ〳〵にし、その中につけながら指先でしごくとキレイに落ちます。

列車に
はね飛ばさる
其儘に即死

石城郡湯本町大字湯本字三函入山炭礦測量係長谷川要（三二）は廿一日午後八時頃泥醉し湯本町大字向田鐵道踏切を通過せんとする際折柄進行し來つた列車第八二四號に跳ね飛ばされ即死したのを同僚菅波三郎が發見平署飯島部長檢視したと。

駄々をこねる
僞……刑事……
平署に引致

廿一日午前一時頃平町五色町遊廊小泉樓に一人の男が登樓『俺は福島署の刑事だ』と稱し大豪遊を極めた揚句職權をふりまはし駄々をこねて居た所が平署安田刑事に探知され平署に引致目下嚴重取調中であるが此奴は石城郡四倉町某會社の職工長谷川長七であると。

平町
娼妓慰安
有聲座にて

平町鎌田遊廊にては本日午後六時から娼妓慰安の爲め有聲座の活動寫眞を見物せしめると、

永戸火防檢査　石城郡永戸村消防組にては幹部を召集同村駐在巡査と協力廿日各戸の火防檢査を執行した。

石城地方の
酒釀に就て
岡部署長語る

石城郡に於ける清酒の釀造は當局の指導により逐年發達し釀造戸數五十四、釀造高　箇年二万七千石に達し毎年利酒會其他の催しをなし品質の

改良に　努めてゐるが未だ他地方からの移入品を驅逐するまでにはなつてゐない岡部稅務署長は『一般に嗜好が高まり强溫度のものを要求されるので釀造家は此の點に努力を要する前任地の

秋田縣　は進歩して居り醇良の優品が盛んに釀造されてゐる、當地方は傳統的の風習を脱することが出來ず釀造用具、醱酵等の點に改良を要し精米機を有する釀造家も四、五軒に過ぎない狀態で

仕込み　も當地方は七石とか九石とか容量であるが秋田地方は二百八十貫三百五十貫と重量の方法を取つてゐるが、この點も大いに學ぶべき點があると過日の酒造組合の

總會に　於ては參考となるべき所見を述べた』と語つた。

嚴谷先生の
揮毫が到着
參觀を歡迎

本社主催嚴谷小波先生揮毫會は既記の如く頗る好成績にて申込み依頼が豫定數を突破するの盛況を示したが第一回揮毫の分は既に本社宛到着し輕妙洒脫な墨こんは清香を放つて居るから此際參觀希望の方は遠慮なく本社を訪問せられ度し

平署が
萬引を警戒
舊二日市に

平署にては舊曆二日の賣出しに際し管内巡査六十名を召集平町の各商店に張り込ましめ萬引其他一般警戒に從事せしむると。

磐城病院
增築
患者が滿員

平町田町磐城病院は常に入院患者の絶え間なく病室滿員である爲め增設に迫られ近く增築工事に着手する筈であるが、竣工後は廿餘名の患者を收容し得る由にて合せて特別室を設くるといふ。

好間縣道修理　石城郡好間村より澤渡村に通ずる縣道は荷馬車往來繁く泥濘にて通行に困難を感じて居たが此程修理に着手したと。

平町人事

△出生
△五丁目一〇　當時双葉郡久之濱町草野源吉氏長女八重子
△紺屋町四五　小川袋康氏二女トヨ子
△三丁目五八　大平喜八氏長男榮
△新川町六　伊藤長三郎氏四女榮子
△八幡小路七六　松浦章氏長女登美子

△婚姻
△石城郡好間村（二一）四丁目三六　淺井貞久氏　加藤スイ（二二）

△死亡
△才槌小路二九　强口榮三（一つ）
△柳町一　吉田作次郎（六四）
△柳町一七　鈴木泰助（五六）

社告

明廿四日は動力休業に就き本紙休刊